



おいしく たのしく すこやかに



2026年3月期 第3四半期 決算説明会

2026年2月10日
森永製菓株式会社

将来予測・業績予想について

本資料には、当社（連結子会社を含む）の見通し、計画、目標など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定を基礎としたものであり、将来における当社の実際の業績または展開と異なる場合があります。

● 3Q売上高は過去最高を更新、営業利益は増益

- 売上高、営業利益共に11月発表通期業績予想達成に向け着実に進捗
- 菓子食品・冷菓事業が増収を牽引（9月価格改定後も堅調）
- 原材料等のコスト増や米国・i n事業の減益を、菓子食品・冷菓事業の増収および、価格改定・コストダウン等の収益改善策により打ち返す

● 通期業績予想は11月発表数値より修正なし

- 売上高2,360億円、営業利益223億円
- 事業別には進捗の良し悪しあり

2026年3月期 第3四半期 実績



売上高は第3四半期累計として過去最高、各段階利益も前年を上回る

(単位：億円)	実績	前期比較	
売上高	1,816	+51	102.9%
売上総利益 〔売上総利益率〕	735 〔40.5%〕	+27 〔+0.4pt〕	103.7%
営業利益 〔営業利益率〕	196 〔10.8%〕	+2 〔▲0.2pt〕	101.0%
経常利益	198	+0	100.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	155	+19	114.4%
EBITDA ^{*1}	271	+5	101.8%

2026年3月期 第3四半期 実績：四半期別



第3四半期単は、価格改定のほかコストダウン効果により売上原価が改善し、粗利率・額共に伸長

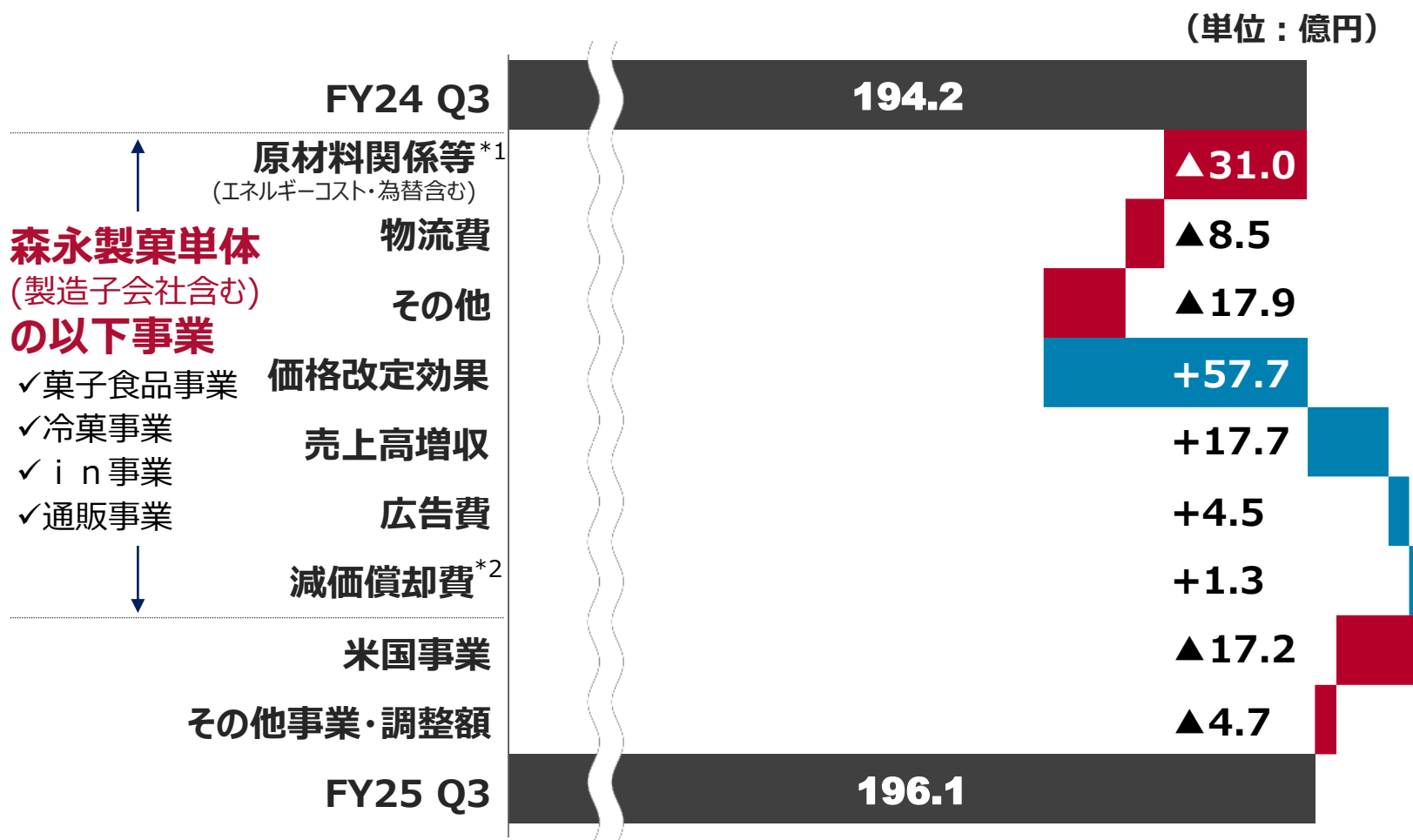
(単位：億円)	1 Q単	前期比較		2 Q単	前期比較		3 Q単	前期比較	
売上高	602	+33	105.8%	616	▲3	99.5%	597	+20	103.5%
売上総利益 〔売上総利益率〕	248 〔41.3%〕	+13 〔▲0.1pt〕	105.6%	250 〔40.6%〕	▲1 〔+0.0pt〕	99.7%	236 〔39.5%〕	+14 〔+1.0pt〕	106.3%
営業利益 〔営業利益率〕	70 〔11.8%〕	+3 〔▲0.0pt〕	105.3%	62 〔10.1%〕	▲9 〔▲1.4pt〕	87.9%	62 〔10.5%〕	+7 〔+0.8pt〕	112.4%
経常利益	72	+3	103.8%	62	▲9	87.2%	64	+7	112.2%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	50	+2	103.4%	59	+2	104.1%	45	+16	152.3%
EBITDA ^{*1}	95	+5	105.1%	87	▲8	91.8%	88	+8	109.8%

*1 EBITDAは簡易版を使用→営業利益+減価償却費

2026年3月期 第3四半期 実績：営業利益増減要因



原材料等のコスト増や厳しい競争環境が続く米国事業の減益を、菓子食品・冷菓事業の増収および価格改定・コストダウン等の収益改善策により打ち返す



原材料関係等

- ・高騰原材料：カカオ関連、油脂(アイスコーティング)、紙器・段ボール等包材(メーカーによる労務費等コスト転嫁)
- ・エネルギーコスト影響額：+0.1億円
- ・為替感応度：1円円安＝年間で1億円弱の減益影響

価格改定効果

- ・24年9月：菓子食品(ビスケット、チョコ、ココア・甘酒(一部))、冷菓
- ・24年12月：i n (i nバー)
- ・25年2,3月：菓子食品(チョコ、ビスケット(一部)、スナック(一部)、ココア等)
i n (プロテインパウダー)
- ・25年6月：菓子食品(チョコ(一部))
- ・25年9月：菓子食品(ビスケット、チョコ、ココア、ゼラチン等)、冷菓

その他(主な要因)

- +) 販売費
-) 売上原価増(労務費等の固定原価)、DX投資、人件費

米国事業増減要因

- +) 価格改定効果
-) 販売費増、関税、原材料費等増

参考：広告費(連結計)

FY24 Q3 81.9億円	} 損益影響
FY25 Q3 79.6億円	
	+ 2.3億円

2026年3月期 第3四半期 実績：事業別サマリー



菓子食品・冷菓事業が増収を牽引 菓子食品事業は価格改定・コストダウン等により収益性を大きく改善
i n・米国事業は減収・減益

(単位：億円)		売上高			営業利益			営業利益率	
		実績	前期比較		実績	前期比較		実績	前期比較
食料品 製造	菓子食品事業 ^{*1}	660	+38	106.0%	63	+31	194.7%	9.7%	+4.4pt
	冷菓事業	435	+31	107.7%	49	+3	108.1%	11.4%	+0.0pt
	i n事業 ^{*1}	241	▲11	95.6%	54	▲11	83.1%	22.4%	▲3.4pt
	通販事業	82	▲4	94.7%	4	+1	127.1%	5.7%	+1.5pt
	事業子会社等	82	+4	104.2%	1	▲1	72.4%	2.2%	▲1.0pt
	国内計	1,501	+56	103.9%	174	+24	116.1%	11.6%	+1.2pt
	米国事業 ^{*2*3}	151	▲13	92.4%	9	▲17	36.2%	6.4%	▲10.0pt
	中国・台湾・輸出等	77	+7	109.3%	4	▲2	64.5%	5.3%	▲3.7pt
	海外計	229	▲6	97.5%	13	▲20	41.6%	6.0%	▲8.2pt
	小計	1,730	+50	103.0%	188	+5	102.6%	10.9%	▲0.0pt
食料卸売		65	+1	100.4%	8	▲2	78.7%	12.6%	▲3.5pt
不動産及びサービス		14	+0	101.1%	6	+0	103.5%	46.0%	+1.1pt
その他		6	▲0	98.2%	1	▲0	77.8%	17.5%	▲4.5pt
調整額等					▲8	▲1	—		
合計		1,816	+51	102.9%	196	+2	101.0%	10.8%	▲0.2pt



海外子会社決算日

前期まで 12月31日



今期より 3月31日 に統一

3 Q 現地通貨ベース前年比

	売上高		営業利益	
	当期（4-12月） 前期（1-9月）比較	当期（4-12月） 前期（4-12月）比較	当期（4-12月） 前期（1-9月）比較	当期（4-12月） 前期（4-12月）比較
米国事業 ^{*1}	94.0%	98.7%	36.8%	49.6%

国内市場のトピックス【菓子】

※直近の価格改定実施状況

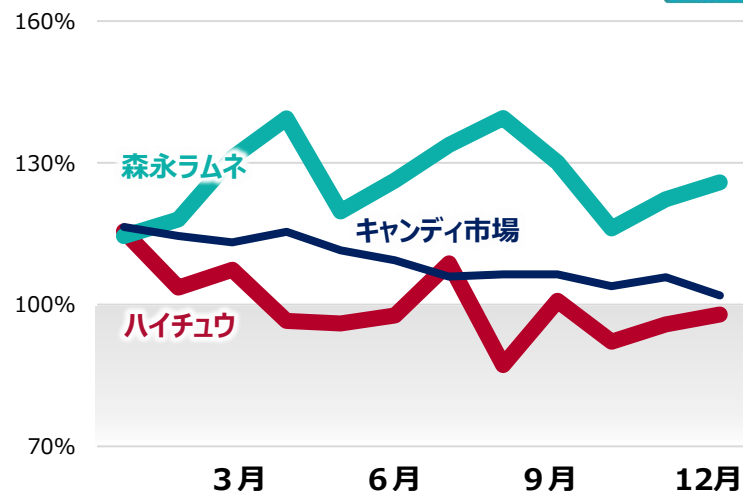
25年2月：チョコレート（ダース、カレ・ド・ショコラ等）／ 25年6月：チョコレート（カレ・ド・ショコラ）

25年9月：ビスケット、チョコレート（ダース等）



販売金額 前年比*1

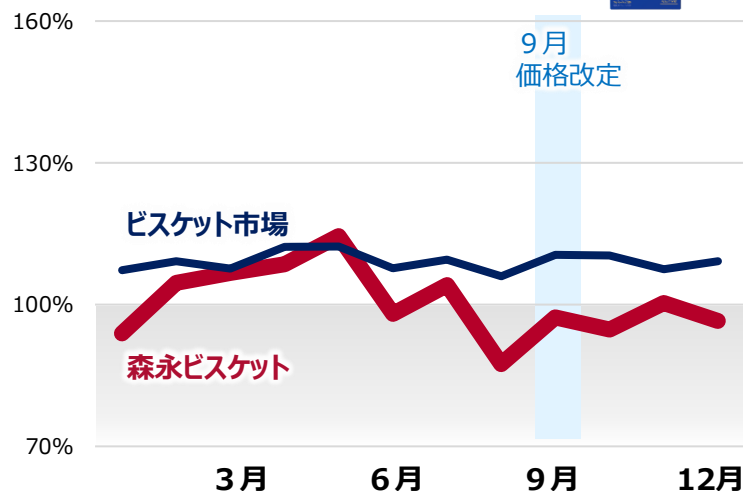
キャンディ



4-12月累計*2	
ハイチュウ	96.4%
森永ラムネ	128.2%
市場	107.3%

- ハイチュウ：12粒・ミニは前年超えも、プレミアムが前年割れ
- 森永ラムネ：主軸大粒ラムネ好調に加え、生ラムネ玉(昨年3月再発売)も好調継続 受験シーズンに向けた取り組みも寄与

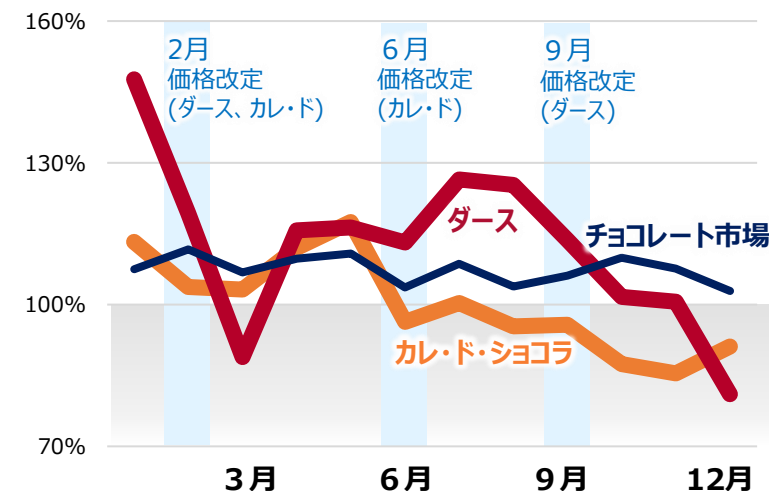
ビスケット



4-12月累計*2	
森永ビスケット	100.0%
市場	109.5%

- 9月価格改定による販促減少の影響から 早期に回復も、市場をビハインド

チョコレート



4-12月累計*2	
ダース	105.6%
カレ・ド・ショコラ	96.8%
市場	107.0%

- ダース：9月価格改定後も主力ミルク・白は好調、一方プレミアム品等が苦戦
- カレ・ド・ショコラ：基幹品は金額ベースで好調も、期間限定品が苦戦

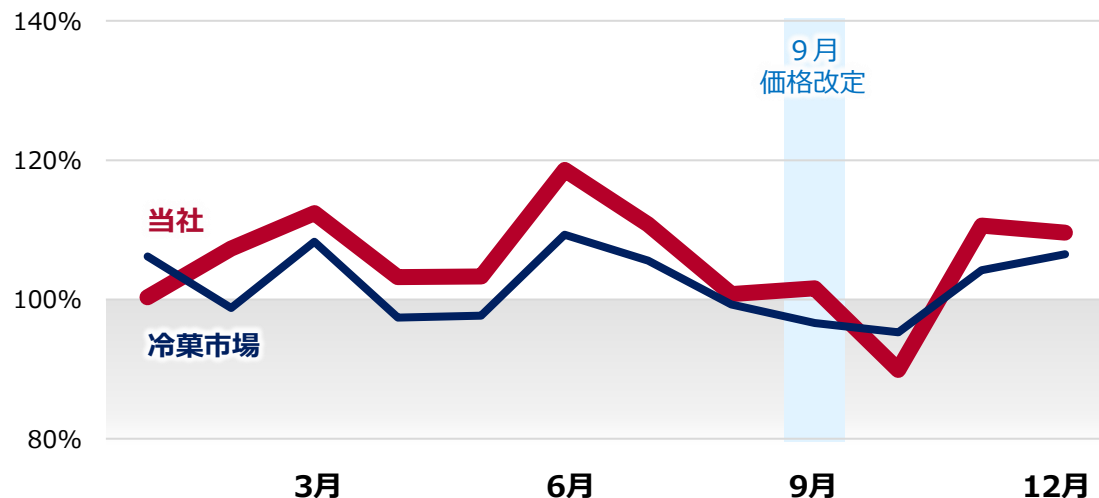
国内市場のトピックス【冷菓】

※直近の価格改定実施状況
主力品：25年9月



販売金額 前年比*1

当社

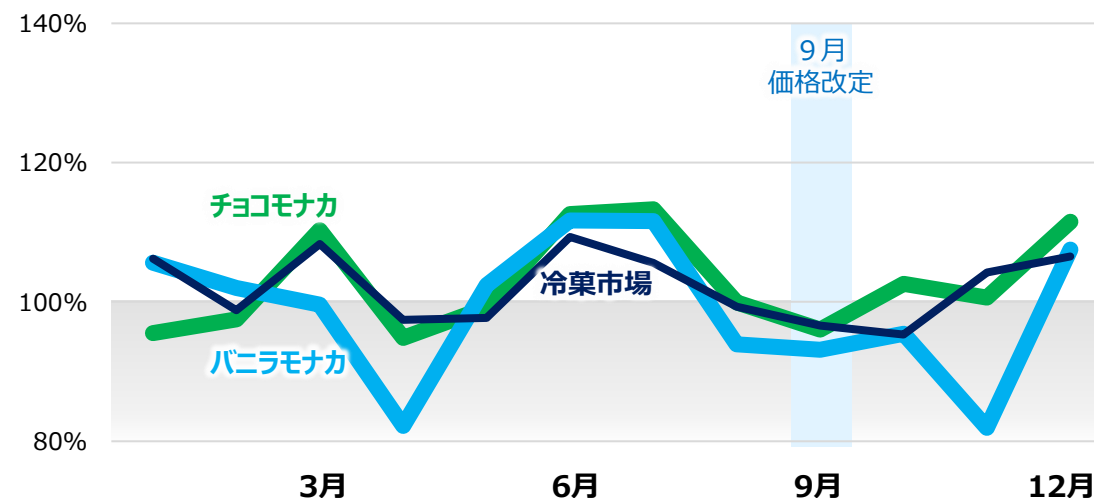


4-12月累計*2	
当社冷菓	105.2%
市場	101.3%



- 板チョコアイス：今期は白い板チョコアイス未発売により前年割れも、ミルクは価格改定後（他商品より上げ幅大きい）も好調継続
- ザ・クレープ：取扱率の拡大や期間限定品の発売、プロモーションが後押しし、価格改定後（他商品より上げ幅大きい）も堅調
- アイスボックス：割材活用訴求による秋冬需要獲得、CVSを中心に取扱拡大が寄与し、売上大幅伸長

ジャンボグループ



4-12月累計*2	
チョコモナカジャンボ	103.5%
バニラモナカジャンボ	98.1%
市場	101.3%

- チョコモナカ：10月初旬のメディア露出、11月後半以降の冬季限定品発売とTVCM投入により、価格改定後も好調
- バニラモナカ：10、11月はやや苦戦も、冬季限定品・WEB広告投入により12月以降復調

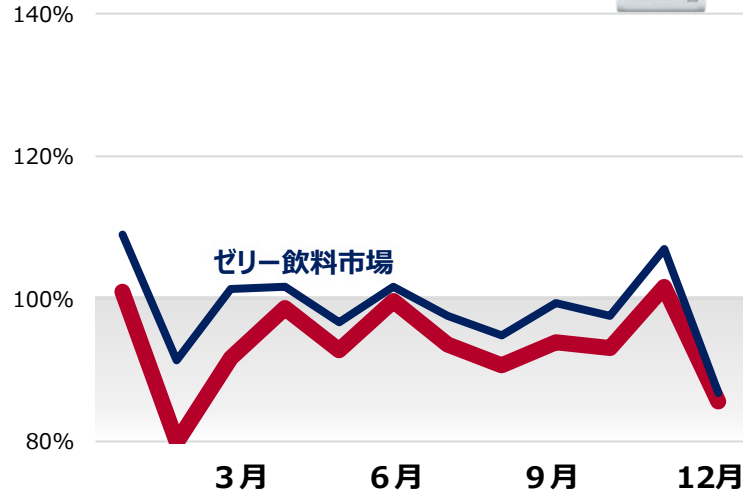
国内・米国市場のトピックス

※直近の価格改定実施状況
通販：2025年4月、米国：2025年11月



販売金額 前年比

i nゼリー*1

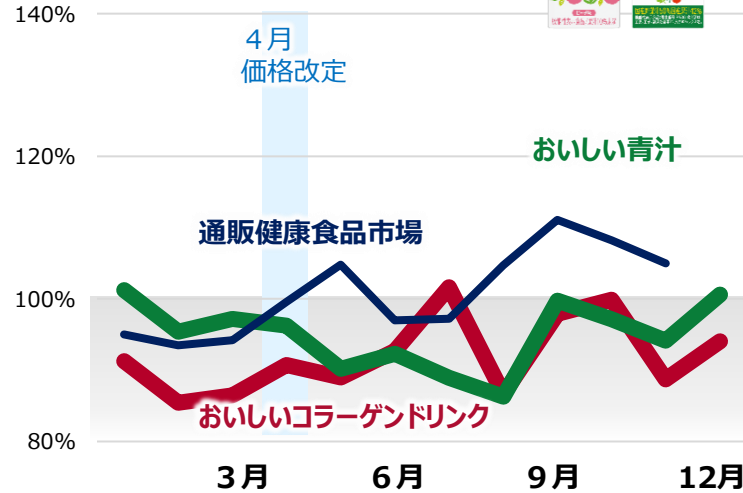


4-12月累計*2	
i nゼリー	94.2%
市場	98.0%

- インフルエンザ流行時期の違い（昨年12月、今年11月）と感染者数減少がゼリー飲料の消費に影響、i nゼリーもエネルギー・ビタミンが前年割れ
- 12月受験取り組みによりブドウ糖好調

売上金額 前年比

通販*3

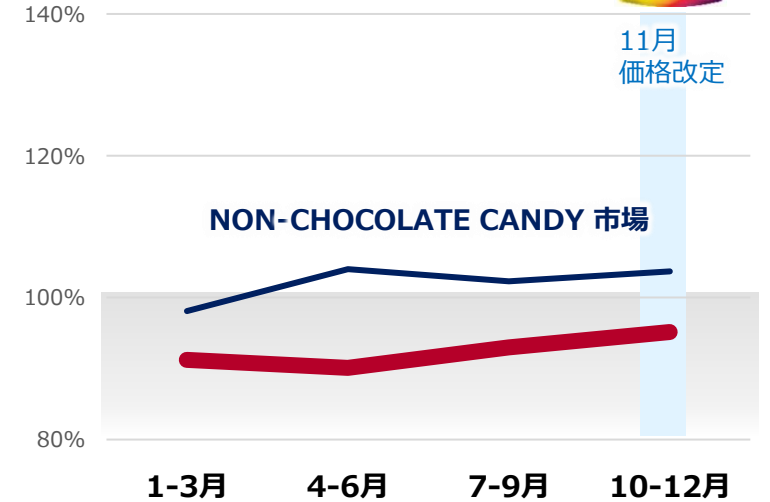


4-12月累計	
おいしいコラーゲンドリンク	93.4%
おいしい青汁	93.9%
市場	103.2%*4

- 上期好調であったオフライン広告の効率悪化により、新規獲得数が伸び悩む
- 上期獲得顧客の継続率が想定を下回る
- ➔ 定期顧客数の積み上げに苦戦

販売金額 前年比

米国 HI-CHEW*5



4-12月累計	
HI-CHEW	92.8%
市場	103.4%

- 大手菓子メーカーのキャンディ注力もあり市場は増収を維持
- HI-CHEWはMASSチャネルで苦戦
- コストアップ対応のため、22年11月以来の価格改定実施（一部商品除く）

※Circana(旧IRI)データのカバー範囲
HI-CHEWの売上高に占めるカバレッジは約60%（当社推定）

2026年3月期 業績予想



事業毎に進捗の良し悪しはあるが、11月発表数値より修正なし

(単位：億円)	通期予想	前期比較	
売上高	2,360	+71	103.1%
売上総利益 〔売上総利益率〕	954 〔40.4%〕	+54 〔+1.1pt〕	105.9%
営業利益 〔営業利益率〕	223 〔9.4%〕	+11 〔+0.1pt〕	104.9%
経常利益	225	+2	100.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	182	+5	102.8%
EBITDA ^{*1}	325	+14	104.3%



おいしく たのしく すこやかに



Fin.



おいしく たのしく すこやかに



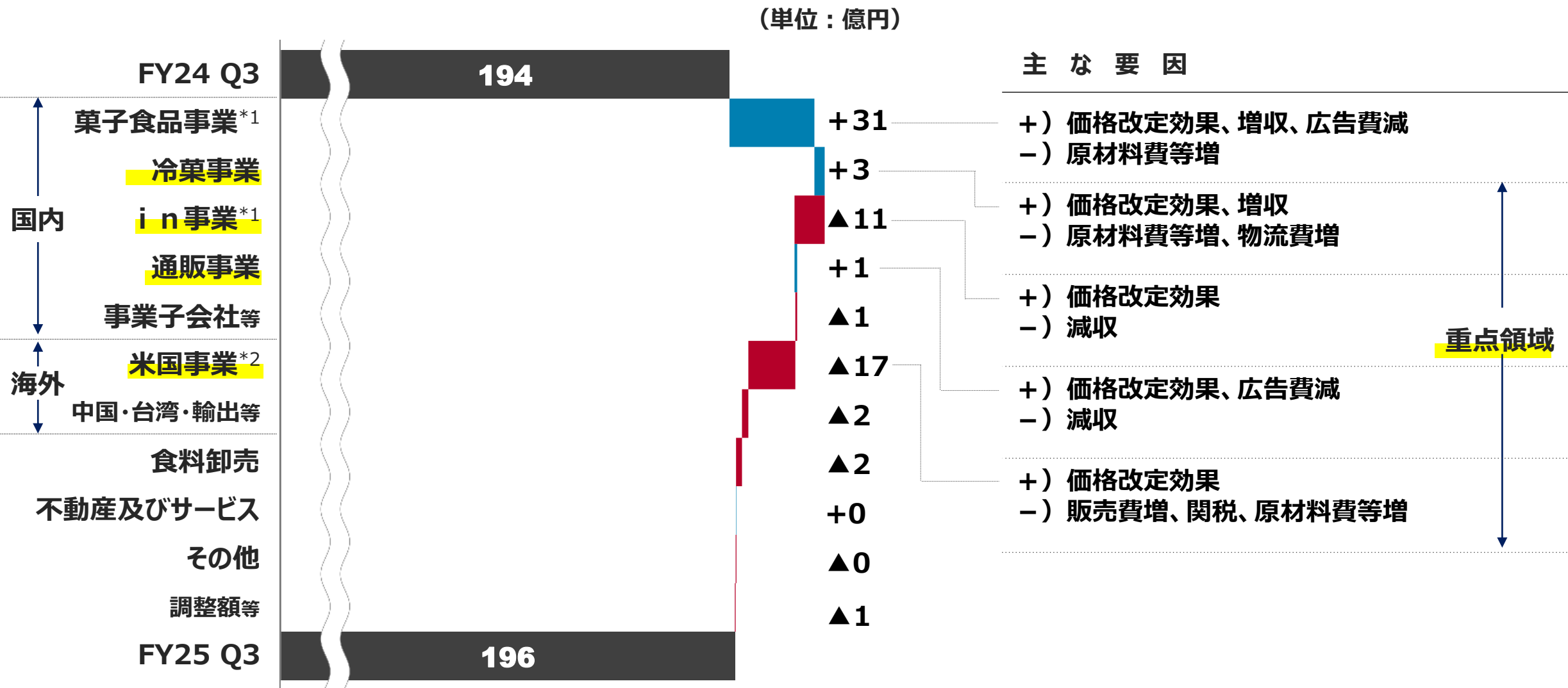
appendix

2026年3月期 第3四半期末：貸借対照表



(単位：億円)	第3四半期末	前期末比較	主な増減内容
流動資産	1,113	+67	・現金及び預金▲65 ・受取手形及び売掛金+91 ・商品及び製品+9 ・原材料及び貯蔵品+6
固定資産	1,105	+52	・建物及び構築物▲11 ・機械装置及び運搬具▲24 ・土地▲6 ・ソフトウェア+4 ・投資有価証券▲5 ・繰延税金資産▲5
資産合計	2,218	+119	—
流動負債	624	+106	・支払手形及び買掛金+47 ・短期借入金+50 ・未払金+7 ・未払法人税等+7 ・賞与引当金▲15
固定負債	233	▲24	・長期借入金▲30 ・繰延税金負債+2 ・退職給付に係る負債+4
負債合計	858	+83	—
株主資本	1,207	+31	・利益剰余金+31
その他の包括利益累計額	136	+4	・繰延ヘッジ損益+1 ・為替換算調整勘定+4 ・退職給付に係る調整累計額▲3
非支配株主持分	16	+1	—
純資産合計	1,360	+37	—
負債純資産合計	2,218	+119	—
自己資本比率	60.6%	▲1.7pt	—

2026年3月期 第3四半期実績：事業別の営業利益増減



国内主力ブランド前年同期比



(単位：%)

事業区分	ブランド	1Q	2Q単	3Q単	3Q累
i n事業	i nゼリー	97	92	98	96
	i nバー	92	127	81	96
通販事業	おいしい コラーゲンドリンク	91	95	94	93
冷菓事業	ジャンボグループ°	105	104	107	105
	板チョコアイス	155	79	82	100
	ザ・クレープ°	146	130	107	126
	アイスボックス	120	108	125	114

事業区分	ブランド	1Q	2Q単	3Q単	3Q累
菓子食品 事業	森永ビスケット	103	94	98	99
	ハイチュウ	100	98	96	98
	森永ラムネ	125	141	127	131
	カレ・ド・ショコラ	125	89	110	109
	ダース	117	105	96	104
	チョコボール	126	117	119	120
	森永甘酒	97	96	93	95
	森永ココア	151	122	116	125

国内市場 販売金額前年同期比

